



# 大杉谷国有林からの手紙



## 36通目 ～大杉谷の紅葉を彩る樹木～

今夏の暑かった日が嘘のように涼しくなり、大杉谷国有林でも落葉樹の葉が色づきとても綺麗な紅葉の風景を見せてくれています。色めいた様々な葉っぱが織りなす景色はとても幻想的ですよね。そこで今回の大杉谷の手紙では、紅葉の「縁の下の力持ち」の樹木たちにスポットライトを当てたいと思います。

### (1) ブナ

ブナは別名「森の女王」と呼ばれるほど、大きな大木となり山々に君臨している樹木です。

写真1のように葉っぱの縁が波打っているのが特徴で、幹も白っぽくて上品な感じなのですぐに見分けることができます。この写真では葉っぱの色の変化がよくわかり、緑色→黄色→茶色に変化しています。これらの色のグラデーションが紅葉時の綺麗な風景を作っていると思うと自然の雄大さに感動を覚えます。



写真1 ブナの葉色とりどり



写真2 ブナの実

ちょうど写真1を撮った時、地面にブナの実(写真2)が落ちていました。

ブナの実ほかのドングリに比べて味がおいしいため、野ねずみやクマ達の好物です。殻を割り中身をかじってみました。ほのかに甘い栗のような味がしてクマたちが好きな理由がよくわかった気がしました。

そこで疑問に思ったのが、「おいしいのなら全部食べ尽くされてブナの実が残らないのでは？」ということでした。調べて見るとブナは毎年同じ量の種子をつくるのではなく、年によって豊作凶作の変化があるそうです。(これを「マasting」と言います。)

子孫を残せるようにきちんと考えてある点がすごく感心する部分です。



写真3 コミネカエデ

## (2) カエデの仲間たち

10月や11月に林道を走行していると、至る所に綺麗なカエデの紅葉風景が広がっています。写真3は其中で赤色に変わり始めたコミネカエデの写真を載せてみました。掌(てのひら)状の葉が特徴的です。

これらの葉っぱは黄色や赤など色とりどりになるのですが、どうしてこの様な色になるのか皆さんご存じでしょうか？

実は葉っぱには「クロロフィル」という物質があって、この物質で緑色に見えていますが、この時期になると分解が始まって赤色は「アントシアン」、黄色は「カロテノイド」に変わっていくからだそうです。樹木にとっては厳しい冬に備えるための冬支度を進

めている真っ最中ですね。この綺麗な景色も樹木達の冬支度が終わってしまうと見納めです。

## (3) 紅葉風景

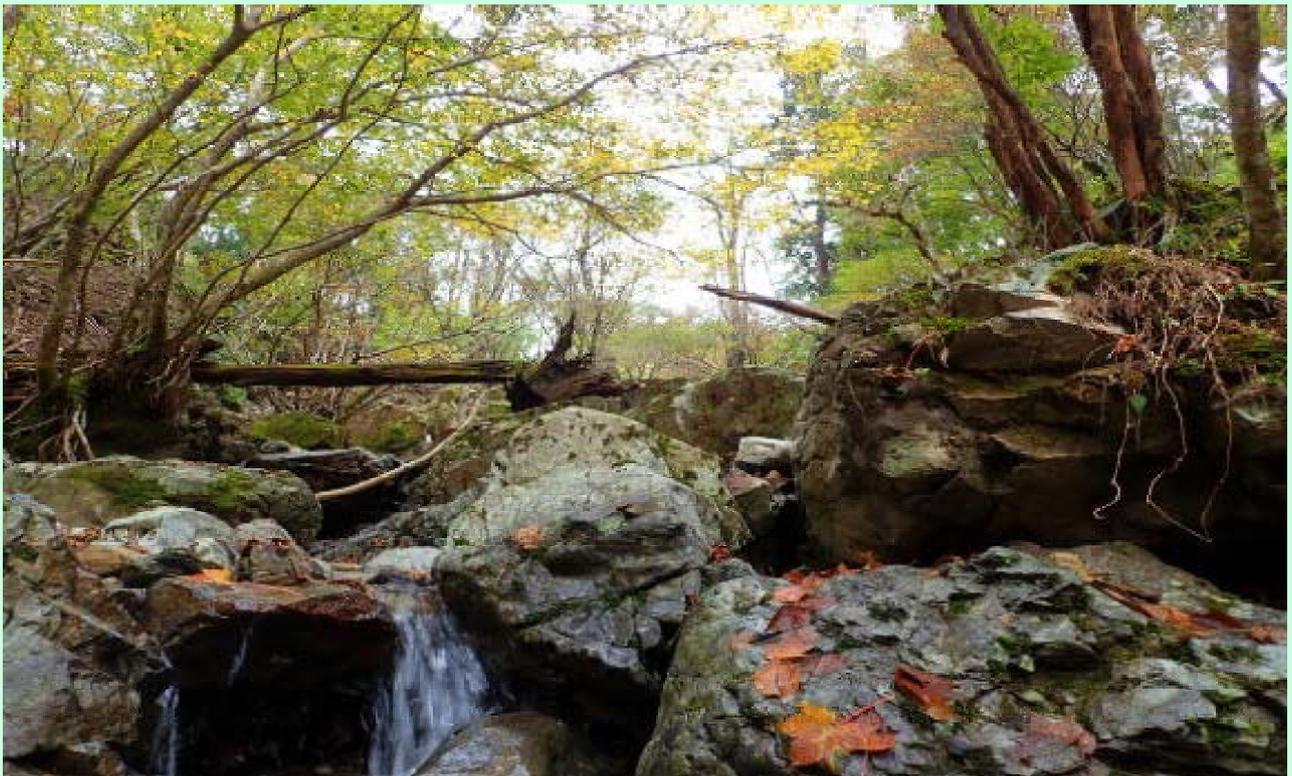


写真4 大杉谷の紅葉風景

この写真は私が大杉谷国有林内で撮影したものです。大杉谷国有林、そして奈良県境の大台ヶ原では紅葉シーズンに様々な樹木が色づき素敵な景色を楽しませてくれます。皆さんも是非来ていただき、この景色を楽しんでいただけたらと思います。

**発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官**